

はにんす

ハマカンター(グンバイヒルガオ)の花が咲き、海の神と陸の神の争いが始まる季節になりました。その争いが台風だと、山本川恒さんは語っています(「海の神と陸の神—台風の由来」)。写真は、川恒さんの出身地・名護市宇茂佐の海岸。



コロナの影響で、今年の総会も

書面表決で開催

第十七回通常総会報告

二〇二二年(令和四年)五月二十八日、第十七回通常総会が開催されました。今年度も新型コロナウイルス感染防止対策に鑑み書面表決での開催となりました。正会員九七名中、六三名(書面表決者三三名・委任状二一名・出席九名)の出席があり、正会員の二分の一に足る出席で総会は成立しました。その結果、第一号議案から第三号議案まで全ての議案が承認されました。

二〇二二年度事業

- 今年度も沖縄の伝承話の保存・活用普及を図るために必要な事業を実施すると共に、当センターで所蔵している資料等の整理作業を行います。
- ①デジタル化未処理資料等の整理作業
- ②豊見城市民話調査資料の翻字修正作業
- ③昔ばなし大学専門コース開催協力
- ④センター所蔵資料の整理作業
- ⑤貴重話の選定と翻字作業
- ⑥再話研究会の開催
- ⑦外部協力事業(青山学院大学実習生受入)
- ⑧執筆活動
- ⑨広報活動(ホームページの充実等)

⑩「遠藤庄治著作集第二巻」の編集及び出版

⑪『沖縄伝承話総覧』の執筆作業

役員の変更

今年度は役員改選の年で、左記の方々が理事・監事に選任されました。

- 理事
新任一名…加治工尚子
再任十四名…安里洋子・泉武・大田利津子・後藤明・佐渡山安公・田名洋子・照屋寛信・比嘉久・樋口淳・辺士名朝
三・丸山顕徳・諸見徳一・八島喜一・山口真也(五十音順)
- 監事(再任)…井上むつき・宮里牧

新理事長に比嘉久

二〇二二年六月十一日(土)、理事長、副理事長を決める理事会を開催(書面表決)し、次の通りに決まりました。
理事長 …比嘉久
副理事長…大田利津子
副理事長…照屋寛信

照屋寛信さんは、NPO法人発足後すぐに亡くなった遠藤庄治初代理事長のあとを引き継ぎ、十六年間理事長としてご尽力されました。本当に長い間お疲れさまでした。

つなぎ役のはずが十六年!

前理事長…照屋寛信

二〇〇六年に遠藤先生を理事長として設立した「NPO法人沖縄伝承話資料センター」でしたが、振り返ってみれば、遠藤先生がNPOを立ち上げて間もなく他界し、その後、「次の理事長へのつなぎ役」として引き受けたはずの理事長の職を十六年間も務めることになりました。

最初の大事業が「遠藤庄治先生のお別れ会」と「追悼文集の発行」です。それから十六年、「沖縄伝承の旅」、「遠藤庄治著作集の出版」、「沖縄伝承話資料のデジタル化」、そして、その資料の「沖縄県立博物館・美術館への寄贈」など、さまざまな事業を行ってまいりましたが、それも偏に、理事の方々や会員のみなさま、さらに、それぞれの事業の推進にご理解とご協力をいただいた関係機関や企業等のみなさまの支えがあったからこそ実現できたものです。深く感謝申し上げます。

NPO法人沖縄伝承話資料センターの使命はまだまだ道半ばです。会員のみなさまには、引き続きご協力とご支援をよろしく願います。

「みんなで伝えよう!沖縄の伝承話の輝きと心を!」です。

沖繩伝承話資料の デジタルデータ届く!

—八島理事が十五年かけて
デジタル化—

今年の総会の直前、当センターの理事・八島喜一さんから「沖繩伝承話資料(紙資料)」のデジタルデータが詰まったハードディスクが、センター事務局に届きました。それは、八島理事が二〇〇八年〜二〇二二年の間に行ったデジタル化作業のデータでした。

その八島理事の行った作業に対し、感謝の意を込めて、共に作業を進めてきた当センター運営委員の辺士名初美さんに作業の内容とデータの概要を記していただきました。

八島理事と遠藤先生は、二〇〇五年(平成十七年)十月三〇日に行われた富野小学校創立百三十周年記念講演会を機に知り合っています。富野小学校は遠藤先生の母校で、当時、八島理事はその学校の校長先生をされており、沖繩の民話研究の第一人者として活躍されている遠藤先生を講演会の講師に推挙しています。遠藤先生は、病氣療養で

福島に帰郷していたのですが、母校の後輩のために、「富野の民話と琉球の民話」という題で講話を行いました。『富野小学校創立百三十周年記念講演記録』掲載。遠藤先生亡き後、八島理事は、NPO法人沖繩伝承話資料センターに入会され、以来、理事としてセンターの活動を支えています。

センターでは、遠藤庄治著作集を発売しようとして計画し、『追悼 遠藤庄治—沖繩の伝承話研究と教育に捧げた生涯—』(二〇〇六年八月発行)に収録されている「遠藤庄治の主な業績」等を参考に資料を収集しながら、そのコピーを八島理事に送り、デジタル化作業を担っていたいただきました。二〇〇八年より今年二〇二二年まで、デジタル化された資料は膨大な量になりました。その間、東日本大震災という甚大な災害に見舞われながらも、八島理事は、デジタル化作業を継続されました。その熱いお志に、心より感謝申し上げます。

八島理事がデジタル化を行った資料は、著作物等が約一四〇点、新聞記事等が約五一〇点、実戸家所蔵の資料が八〇点余、講義資料等が約二〇〇点に及びます。

それによって、これまでに『遠藤庄治著作集第一巻沖繩の民話研究』(二〇一〇年四月)、『むかしばなし』と「伝承話」—遠藤庄治著作集第一巻発刊記念文化講演会講演録—小澤俊夫・横山幸

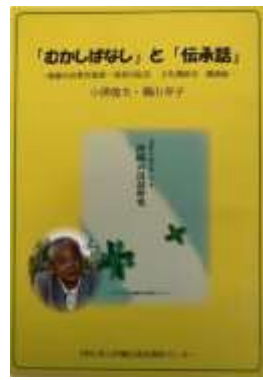
子』(二〇二一年三月)、『遠藤庄治著作集第一巻沖繩の民話研究—索引—』(二〇一六年十月)を発刊することができました。そして、今年度は『遠藤庄治著作集第二巻民話集解説編』の発行を予定しています(発行方法を検討中)。

さらに、それは、今後進められる『遠藤庄治著作集』の第三巻(沖繩の昔話・民話話型編)、第四巻(渡嘉敷の民俗)、第五巻(新聞・雑誌・会報・講演録等)、第六巻(再話作品)、第七巻(国語教育論考・万葉集論考編)等の編集作業に大いに役立つものと考えます。その他、「沖繩国際大学口承文芸研究会」「沖繩民話の会」等の関係資料もデジタル化されており、センターでは、この膨大な資料を広く公開して、沖繩の伝承話に関心のある方々と共有し、有効活用していきたいと思っています。

そして、八島理事の労に謝意を表するとともに、著作集を発刊するために校正作業の筆頭として尽力された安里和子氏にも厚く感謝申し上げます。



A5判/129項
1200円+税※在庫なし



A5判/67項
500円+税



B5判/431項
4000円+税/会員 3520円



A5判/231項
1000円+税

重い責任を感じています！

NPO法人沖縄伝承話資料センター

理事長 比嘉久

六月十一日の理事会で理事長に選任され、重い責任を感じています。照屋理事長は、それを十六年も……。たいへん頭が下がります。ほんとうにお疲れさまでした。そして、引き続きご指導をよろしく願います。

二〇〇五年の八月十四日、沖縄国際大学の教室でNPO法人沖縄伝承話資料センターの設立準備総会が開かれました。いよいよNPO法人の認証をめざして動き出すことを決める総会です。僕はその数日前から家族と夏休みの旅行中で鹿児島にいました。まさかその

大切な総会に欠席するわけにはいけないうと、旅の途中にとんぼ返りで総会に出席したのを覚えています。そして、当時の事務局長であった安里和子さんをはじめとする関係各位の努力で、二〇〇五年十二月八日に沖縄県知事の設立認証を受け、二〇〇六年一月十六日に法人登記が完了して、NPO法人沖縄伝承話資料センターが誕生しました。

NPO法人沖縄伝承話資料センターは、「琉球諸島に古くから伝わる伝承話を調査研究し、記録保存する事業を行い、口承文芸学をはじめ関連する諸学

究の資として提供することにより、学術の進展に貢献する他、還元活動をおして乳幼児、児童・青少年の健全育成に寄与することを目的と」しています(定款第三条)。その目的の下、これまでに「沖縄伝承の旅」や「むねがたい(民話の語り)」、「民話まつり」、「沖縄昔ばなし大学」の開催協力、「遠藤庄治著作集」等の発行、「沖縄伝承話データベース」の作成、沖縄県立博物館・美術館の「ウチナー民話の部屋」作成への協力など、さまざまな事業を実施してきました。それらは、初代理事長である遠藤庄治先生の記した「センター設立趣意書」にある「三十余年に及ぶ調査の成果」を「社会の共有財産として公明適切に管理・継承し、その積極的な活用を図ることを意図して」実施されました。

当センター設立時のパンフに「昔ばなしは心の母乳、伝え話は地域の宝―みんなで伝えよう、沖縄の伝承話の輝きと心を―」という言葉があります。引き続き、「沖縄の伝承話」という宝物の共有財産化をめざして、活動していきたいと思えますので、会員みなさまのご協力をよろしく願います。

来年二〇二三年は、沖縄で本格的な民話調査が行われて、ちょうど五〇年になります。一九七三年八月一日、津堅島で、照屋前理事長と大城蒲太翁のあ感動的な調査から五〇年です。何か記念の事業をやる必要があるのではと

考えています。会員のみなさまのアイデアをお寄せ下さい。



大城蒲太さんから話を聞く照屋寛信さん。

話者の方言語りを

どう表記するか？

―しまくとぅばの表記法を学ぶ―

二〇二二年六月二四日(土)、宜野湾セミナーハウス研修室で、「しまくとぅば正書法検討委員会の作成した「沖縄県におけるしまくとぅばの表記について」を学ぶ学習会を開催しました。講師は、その検討委員の一人である西岡敏先生(沖縄国際大学教授)です。

当センターは、二〇一六年度県立博物館・美術館委託のデジタルミュージアム事業デジタル動画「ウチナー民話の部屋」作成に当たり、原話者が語ったしまくとぅばの文字表記を県立博物館が指定した「琉球方言かな表記と音声表記」を使って翻字するという経験をしました。

学習会では、「国頭語」「沖縄語」「宮古語」「八重山語」「与那国語」の仮名表記一覧が示されました。今後、その表記法を使って話者の方言語りを表記していくことが可能なかを含め、さらに検討し学ぶ必要があると思いました。



A5判/265項
1600円+税



B5判/230項
2000円+税

海の神と陸の神

台風の由来

山本川恒（名護市宇茂佐）

昔、海の神と陸の神がいた。陸の神は白い砂浜を眺めて、「あの砂浜を私の領地したい」と考えて、ハマハンダを植えた。

ハマハンダは夏になると、波打ちぎわまでのびて行って、きれいな花を咲かせた。海の神はこれ見て、「きれいな花が咲いている。髪飾りにしよう」と、花を取ろうとした。すると、陸の神様が「この花は私の物だ」といった。海の神様は、「この浜は私の物。私の領地にあるものを取ってなにが悪い」といった。陸の神様は、「この浜を私に譲るのだったら、花をやるう」といった。海の神は怒って、大波を起こしてハマハンダ引きたくろうとした。ハマハンダは根が強くてなかなか引き抜けない。

また夏になり、ハマハンダは波打ち際までのびて花を咲かせた。するとまた、海の神は大波を押し寄せた。次の夏もまた、ハマハンダが伸び、海の神は大波を押し寄せた。

二人の喧嘩はいまでも続いていて決着が着かない。それで、夏になると暴風が吹くという話だ。



本のご寄贈

ありがとうございました！

①南城市教育委員会より

『大里のちてーばなし』

『南城市の民俗』

②後藤明さんより

『モノ・コト・コトバの人類史』

—総合人類学の探求—

③玉木一兵さんより

『敗者の空』

④比嘉久より

『渡波屋から世界へ・眉屋私記文学』

碑建立記念誌・

樋口理事、

沖縄民俗学会で発表！

沖縄民俗学会の二〇二二年七月例会で、樋口淳理事が「沖縄の民話をどう記録するか」という題で発表を行いました（七月二三日、リモート開催）。沖縄の民話調査がどのように行われてきて、どれくらいの資料があり、それをどこまでデジタル化できていて、それがどのように活用されているかを詳しく説明されました。

学会員のみなさんからは、奄美のデータも視野にいれてはどうか！方言の

語りを聞くことができ、貴重だ！など、沖縄の伝承話資料に関心を寄せた意見を聞くことができました。樋口先生、お疲れさまでした。
センターとしても、デジタル化が進んでいない市町村のデータの収集に努め、早急に作業を進める必要性を感じました。



■会費の納入よろしくお願ひします！

①ゆうちょ銀行 口座番号：01760-0-78884

②沖縄銀行宜野湾支店 口座番号：1371606

口座名義は①②とも下記のとおり。

特定非営利活動法人沖縄伝承話資料センター

NPO 法人沖縄伝承話資料センター

〒901-2214 宜野湾市我如古2-4-15 301号

TEL/FAX 098-890-2455 E-mail: denshow1@at.au-hikari.ne.jp